

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①学習意欲や探究心を高める教育課程編成及び組織的、体系的な授業改善を推進する。 ②学校行事や生徒会活動等の内容を充実させ、生徒の主体性、リーダーシップを育成する。	①学力向上進学重点校の指定に向け、組織的な授業改善の推進、探究的な学びの充実を図る。 ②理数分野の興味・関心を高め、科学的リテラシーの涵養を図る。	①アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業の研究に取り組むなど、組織的な授業改善の充実を図る。 ②科学技術・理数に関する知的探究心を高めることをねらいとして、大学・専門機関との連携を図る。	①アクティブ・ラーニングの視点を入れた授業に係る研修会を実施し、教員の理解が進んだか。 ②外部機関との連携を通して、理数分野への興味・関心を高めることができたか。	①アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業の研究を行い、研究重点期間において有意義な研究授業や研究会を実施できた。 ②大学の出張講義や製薬会社の研究室体験などを通して、生徒の科学技術や理科に関する知的探究心を高めるとともに、JSTの支援のもと、科学的リテラシーの涵養に努めた。	①アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業について理解を一層深め、授業研究を推進していった。 ①他校の授業研究会等への参加希望者の積極的な参加を促す。 ②今後も継続して連携機関を開拓し、研究施設の訪問等の機会を設け、生徒への意識喚起を行う。	アクティブ・ラーニング等は企業の新入社員研修等においても導入されている有効なもので、高校でも行われていることはとても期待できる。	①アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業については進んできているが、組織的な取組としては不十分であった。 ②外部の専門的な機関との連携等により、科学技術・理数に関する知的探究心を高めることができた。	①教材の共有化や教科としての指導案の作成等、組織としての授業改善の推進を図る。 ②科学的リテラシーの涵養に向けて、生徒への意識喚起を行っていく。
2 生徒指導・支援	①社会の一員としての規範意識や公共心、豊かな人間性を育成する。 ②生徒一人ひとりの実態や特性に応じたきめ細かい支援体制を構築する。	②生徒一人ひとりの実態や特性を把握し、情報を共有して課題の解決を図る。	②生徒のニーズを把握し、教員間で情報を共有するとともに、必要に応じてケース会議を開くなど、課題の解決に当たる。	②支援の必要な生徒について、ケース会議等の取組みを通じた課題解決につながったか。	②生徒一人ひとりの実情を的確に把握し、学年はもとより、学校全体で情報を共有するとともに、必要な生徒にはカウンセリングや医療機関等へと導くことに努めた。	②カウンセリングを必要とする生徒は多く、ケース会議を充実させることやスクールカウンセラーの配当時間を増やす等、十分な対応方法を検討する。	カウンセリングについては、生徒だけではなく、保護者に対しても対応するようにすべきである。	②学校全体で情報共有をすることで課題につながったが、カウンセリングを必要とする生徒は多く、十分な対応ができなかったケースもある。	②スクールカウンセラーからの情報を有効に活用することやケース会議を充実させるなど、一層の課題解決に取り組む。
3 進路指導・支援	○生徒一人ひとりの第一進路希望を実現させる進路指導体制の一層の充実を図る。	○生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、キャリアガイダンスとキャリアカウンセリングを充実させる。	○模擬試験等の結果を踏まえ、分析を行うとともに、面談等個々への指導に反映させる。	○進路実現に向け、試験結果等のデータを有効に活用しながら、面談に生かすことができたか。	○模擬試験の結果や授業評価等を分析し、情報の共有化に努め、面接などの指導に活用した。 ○夏季講習や土曜講習等で、苦手分野の補強や発展的な内容を推し進めることができた。	○各教科による分析を充実させ、授業改善に反映させられるよう工夫する。 ○生徒の学習状況について分析し、必要な講習等を設定する。	生徒のニーズに合った十分な指導がなされていることは評価できる。	進路指導に関する情報の共有化は図れたが、個々の生徒に関して十分な活用が図れていない面がある。	模擬試験の結果分析等、進路に関する情報についての一層の有効活用を図る。
4 地域等との協働	○外部への情報発信を拡充するとともに、地域を始め、保護者・同窓会との連携・協働を一層推進する。	○地域の教育力を活用した取組み、大学や研究機関等との連携・協働した取組みを推進させる。	○知的探究心を高める大学・研究所等外部関係機関との連携・協働した事業に取り組む。	○大学・研究所等外部関係機関との連携・協働した取組みが昨年度に比べて増えたか。	○地域の製薬会社見学や東海大学の留学生との交流を通して、生徒たちに新たな視点を与えることができた。	○実施時期や交流内容等の改善点を検討し、地域との連携の充実を目指す。	地域の行事に生徒が参加することや地域の機関との連携がなされていることは高く評価できる。	地域の専門機関との連携により、普段の授業の中では困難な、新たな視点を提供することができた。	より効果的な取組となるよう、連携機関との連携内容等を検討する。
5 学校管理 学校運営	○事故・不祥事を防止するとともに円滑で効率的な学校運営に努め、県民から信頼される学校づくりを推進する。	①事故防止会議や授業改善等に係る研修会の実施及び内容の充実に取り組む。 ②安全で快適な教育環境の確保に努める。	①事故防止会議や研修会を実施し、教職員の意識、資質の向上を図る。 ②施設等の修繕を随時行うとともに清掃活動の充実を図る。	①事故防止会議及び研修会の実施回数及び参加率を高めることができたか。 ②学習環境の整備・改善がなされたか。	①研修会だけではなく日々の打ち合わせ等においても事故防止への意識付けを図った。 ②校舎の外壁補修等の大規模な修繕がなされ、学習環境の整備を行った。	①今後も継続して意識啓発を行っていく。 ②校舎の老朽化に関する様々な課題について対応策を検討する。	生徒の育成について教員に期待する面は大きいので、事故等については十分留意してほしい。	様々な機会を利用して、職員に対して事故防止への意識付けを図ることができた。	次年度も同様の取組を継続して行っていく。